

第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	高松市立十河小学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	シビックプライドを育成するための教育課程を求めて

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1 研究の成果と課題

(1) 成果について

学年ごとに下記のような複数のテーマを設定し、子どもたちの興味関心に応じて選択して活動できるよう工夫して取り組んできた。テーマごとに、子どもの課題発見と活動の見通しを大切に、意欲化を図るよう努めた。

	課題 十河の水と緑	課題 十河の歴史と文化	課題 十河のまちづくり
生活	・アサガオ・やさい ・いきもの	・きせつのへんか・あそび ・町のすてき	・自分のすてき ・町のすてき・自分のゆめ
3年	【野菜】・地域人材 ・特産の野菜・豊かな土壌	【まつり】・地域人材・神社 ・十獅会（獅子舞）・夏祭り	※学級数により設定なし
4年	【ため池・用水】・地域人材 ・ため池・吉田川・清掃活動	【古い物】・地域人材・史跡 ・文化財・伝説・伝承	【安全・防災】・地域人材・防災組織・消防団屯所・コミセン
5年	【米】・地域人材・米づくり ・おいでまい・豊かな土壌	【先人】・地域人材・戦国武将十河氏・小村田之助	※学級数により設定なし
6年	【麦】・地域人材・さぬきの夢(品種)・土壌・うどんづくり	【歴史】・地域人材・十河城・遺跡、古墳・壺井六五郎	【花】・地域人材・生花農家・県オリジナル品種・店舗

また、カリキュラムづくりにおいては、「十河の香り活動」充実のための方策として、次の4点を意識して取り組みを進めてきた。

- ① 地域と協働したカリキュラムの構想
- ② 年度始めに協力者と打合会を実施
- ③ 魅力ある地域素材と地域課題の融合によるカリキュラムづくり
- ④ 参加・体験から参画の重視へ

まず、①の地域と協働したカリキュラムづくりについては、地域の人々と活動の理念を共有することが重要だと考え、地域の方々を招いて、教員と地域の方々が協働してカリキュラムづくりを行っていった。活動には、地域コーディネーターとの連携が鍵だと考え、適任の方を選任するようにした。また、学校運営協議会でも重要な事項として取り上げ、地域学校協働活動として取り組んでいける風土の醸成を目指した。また、②の年度始めに協力者との打合会については、理念を共有することを大切に、グループの担当者と支援いただく地域の方との間で綿密な打ち合わせを行うようにした。これは、単なるゲストティーチャーから年間を通したパートナーへと意識を高めていただくことを目指したものである。

さらに、地域の魅力ある教材と地域の課題解決の融合を試みた。これは、地域の魅力ある教材により郷土を愛する心を育み、地域課題の解決を目指すことにより社会参画する力を育むことをねらったものである。さらに、単なる参加・体験から社会参画へと、レベルの引き上げをねらった活動になるよう工夫した。これについては、年間を通した問題解決的な単元づくりが大切で、教師から与えられる体験から脱却し、自分たちが企画する体験を重視し、子どもたちが自らの経験を深めていけるよう計画した。

以上のようなことを大切に取り組んできたが、今年度は、学校運営協議会で、「十河の香り活動」の取り組みについて話し合う場を設けることで、学校と地域が一体となって活動を進めていくことができるようになってきた。さらに、地域コーディネーターにもご協力いただき、どの活動においても地域人材の積極的活用を図るよう努めることで、地域学校協働活動の充実が図れたことは大きな成果である。

学んだことの発信についても、従来は校内での発表にとどまっていたが、2月に香り活動発表会を行い、活動の成果を保護者や地域の方々を招待し、発信するよう工夫した。

また、十河の香り活動で学んだことを、広く保護者の方や地域の方に知っていただき、共にこれからの十河の未来について考えていただきたいとの思いから、全校生や保護者、地域の方々が集まった場で「十河未来会議」を初めて開催した。各グループの代表者が簡潔に発表した後、地域の方々からもご意見をいただくようにした。「十河の歴史を掘り起こして、もっと十河のことを知って欲しい。」「十河のことをもっと調べて好きになって欲しい。」といったご意見や、「十河の未来について一緒に考えていきましょう。」といったようなご意見が出され、これからの十河地域を地域住民全体で考えるよいきっかけになったと考えている。



【十河未来会議の様子】

この活動は広がりを見せており、校区にある社会福祉ネットワーク会議からも要請があり、子どもたちの代表がコミュニティセンターに出かけて、再度発表を行い、地域の方々と意見交換を行うことができた。

以上のような年間を通した一連の活動を通して、自分はこの地域を構成する一員で、ここをよりよい場所にするために関わっているという意識の醸成が図られたのではないかと考えており、少しずつではあるが、子どもたちにシビックプライドの意識が育ちつつある。

(2) 課題について

十河の香り活動は、取り組むテーマが幅広く、子どもたちの興味関心に沿った活動にすることができる反面、担当する教員は一人であるため、年度当初から見通しをもった活動にすることが難しい。特に、転任してきたばかりの教員にとっては、学校や子どもたちに慣れることが精一杯なところがあり、活動をいかに軌道に乗せるかが大きな課題となっている。これに対応するために、前任者が基本的な計画を立案しておき、引き継ぎも十分に行った後に、地域の方々との打ち合わせに入るなど、今後、活動の継続性という観点からカリキュラムの見直しを行ってきたい。

また、総合的な学習の時間だけでシビックプライドを育むのには限界がある。本年度は、シビックプライドと親和性のある主権者教育の取り組みとして、社会科での実践も行った。また、地域とタイアップした、地域の魅力を掘り起こす絵画コンクールの実施なども行うなど、異なる角度からのシビックプライドの醸成に向けた取り組みを行ってきた。

今後は、総合的な学習の時間を核としつつ、より多方面からのアプローチも大切だと考えており、新たな視点からの活動も模索しながら、継続的に取り組んでいきたい。



【絵画コンクール表彰式の様子】

2 本研究の意義

「社会に開かれた教育課程」という観点から、活動の理念を地域の方々と共有するということが最も大切だと考えている。先に述べたが、本校では、年度当初に地域の方々をお招きして、香り活動の理念や大切にしていること等について説明し、その後一斉に担当者と打ち合わせを行うようにしている。これによって、地域の方の意識も大きく変わってきた。一過性のゲストティーチャーではなく、年間を通したパートナーという意識をいかに醸成するかが大切で、地域との協働による活動の在り方について一つのモデルを示すことができたのではないかと考えている。